郷土の音頭 老人クに伝授

石巻・前谷地小 〝先生〟は4年生

石巻市前谷地小（児童119人）で14日、郷土に伝わる「前谷地音頭」を、児童が地域住民に伝授した。学んだのは前谷地定川地区の老人クラブ「定川喜楽会」の会員たち。孫のような児童たちから踊り方を教わった。児童と住民たちは、音頭を通して世代を超えた交流を深めていた。

老人クラブの会員たちを前に踊りを披露する児童たち

踊りの輪で世代超えて交流

先生役を務めたのは4年生17人で、定川喜楽会からは会員7人が参加、保護者も1人加わった。練習の前に、前谷地音頭の由来や歴史を説明し、〝手本〟として唄と踊りを披露した。

代表の児童が振り付けの仕方を指導。手を左右に振って稲穂が揺れる「なびく」を、重くなった稲穂を連想させる動きで「実り」を、稲穂を束ねて投げるような動作で「稲刈り」を、それぞれ表現してみせた。パートごとに練習した後、マンツーマンで丁寧に細かく指南。最後は全員で輪になって踊った。

君(10)は「前谷地音頭は『コメが実る』っていう踊り。地域の人たちを指導することはあまりなかったので楽しかった」と話した。

喜楽会の　会長(74)は「踊っているうちに何となく思い出した。子どもたちとこうして触れ合うことはなかなかないのでありがたい。教え方も良かった」と語り、児童たちの指導ぶりを褒めた。

9月に遊楽館（石巻市北村）で開かれる「連合クラブ石巻わくわくフェスティバル」で、前谷地音頭を披露するため、喜楽会から「習いたい」との申し出があり実現した。

前谷地音頭は1950年ごろに誕生し、地域住民に親しまれ受け継がれてきた。同校は20年ほど前から運動会のプログラムとして取り入れており、郷土の踊りとして定着している。